



学校だより

子供の「やる気」を育てます

12月号 令和6年11月29日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原 之 雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/~ehouya1/>
email ehouya1@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小
ホームページ
QRコード



「プロセスを大切に…」

副校長 藤本 知子

学習発表会には、多くの方のご来場をいただき、ありがとうございました。「どの子ども堂々と発表していてとても素晴らしいかったです。」「子どもの成長を見ることができて感動しました。」「日頃の学習の様子がよくわかる発表で、完成度も高いですね。」など、子どもたちの頑張りへの賞賛や成長が感じられたという感想を多くいただき、嬉しく思いました。

学習発表会のねらいは、平素の学習活動の成果を生かして発表することにより、自他のよさを見つけ合う喜びや、自己を伸ばそうとする意欲をもてるようにすること。学習の成果を発表するにあたり、自分たちで工夫して創り上げ、思考力や表現力を伸ばすこと。練習や演技・演奏において互いに協力し、主体的に計画・実践する力を養うことです。

今回の学習発表会でも嬉しく思ったり感じたりしたことがたくさんありましたが、その中から特に大事にしたいことをお伝えします。

それは、表題にもある「プロセスを大切に…」です。感想の中にある「完成度」という表現は、子どもたちを賞賛することを意図して使われたもので、大変嬉しい言葉です。ただ、その言葉を「結果」という意味でとらえると学校教育の場にはそぐわない部分も出てくるのではないのでしょうか？確かに、社会人になると「結果が大事」「結果が証明する」等、過程よりも結果を求める表現が使われます。それは当然のことなのですが、子どもの教育の場で「結果」を第一優先にした場合を考えると少し怖くなることがあります。

学習発表会での「結果」は何でしょうか？子どもたちは、発表を通して伝えたい思いは何かを考え、どのように台詞を言えば伝わるのか？どのような動作をすれば伝わるのか？どのような歌い方や演奏の仕方をすれば伝わるのか？と自分の演技・演奏に自分自身で納得がいくように工夫します。高学年になると、場面に出演している一人一人が何処に立ち、どんな演技をしながら何処に移動するのか？など、仲間と様々なアイディアを出し合いながら発表をつくり上げていきます。その時に、他者が感じる「上手か下手か」の評価を「結果」として優先するのであれば、自分たちの思いが見ている人に伝わったならばよくて、伝わらなかったらよくないということになってしまいます。子どもたちには、思いを伝えるために仲間と協力して工夫して表現したこと自体が素晴らしいと思った、楽しかったとまず感じてほしいと思っています。その結果として、見ている人からの賞賛を受けたときに、さらに喜びが大きくなれば…と思うのです。

今回の学習発表会では、それぞれの学年で、子ども自身が工夫している姿を多く見かけました。低学年の子どもたちも、自分の台詞の言い方について声の抑揚や間などを工夫して、何回も練習している姿が見られました。高学年になるにつれて、自分だけでなく、友達と知恵を出し合いながら工夫する姿が見られました。6年生などは、リハーサルと本番を比べてもたくさんの変化・進化があり驚きました。その進化に要した期間は一日もないのです。それは、先生からの指示で変えたのではなく、子どもたち自身で主体的によりよい発表にするために工夫を重ねた成果です。子どもたちの工夫に終わりはありません。子どもたちは、仲間とたくさん意見を交換して思考し、最終的に「こうしよう」と判断をし、表現しています。これは、まさに、今求められている「思考力・判断力・表現力」と言えます。

今回の学習発表会では、「主体的に工夫し続けるプロセス」が多く見られ、とても素晴らしいと思いました。このプロセスは、全ての学習においても大事なプロセスです。今後の教育活動の中でも、今回の学習発表会で得られたこのプロセスを生かし、さらなる成長の力としていきたいと考えています。

繰り返しになりますが、ご多用のところ、たくさんの保護者、地域の方々にご来場いただきましたこと、さらにご家庭での練習やアンケートなどにご協力いただいたこと、心より感謝申し上げます。また、当日の受付、誘導などPTAの特別委員会の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。

学習発表会アンケート受付中
12月6日（金）まで

